事例 No.146 東山東社会福祉協議会

《組織について》

役員構成　会長１名、副会長２名（連合自治会長と民生委員会長）、理事１０名
各種団体長や小学校々長、保護司等監事２名、事務局１名（支所長）
一般会費は２０年度１０８口、21,600 円だったのが、
平成 25 年度１９６口、39,200 円となっている

《組織の設立経緯》

和歌山市社協の指導により昭和６０年頃から東山東社協という組織が正式にできたと伺っている。６５歳以上の一人暮らし者とのふれあい食事会も平成５年９月から初めて開始されることになった。
平成 17 年に正式に東山東地区社協の会則を作成し、活動を強化することになり、役員体制を確立し、一般会員の募集も始めることになった。

活動内容

○一人暮らし高齢者とのふれあい食事会は年間３回場所を替えて行なっている。民生委員の協力により、調査と募集を行い、毎回スタッフを含め３０名を上廻る参加者があり喜ばれている。
○歳末助け合い募金は毎１２月１日～２０日の間に各自自治会長の協力を得て集めて頂き、毎年２７万円を上廻る実績がある。配分会議に基き、在宅の寝たきり者、在宅身心障害者、関係福祉施設、小学校新入生の祝い絵本、その他必要箇所への配分を行い喜ばれている。
○その他各種団体との交流、支援にも気をつけて協力を行っている。

工夫・問題点

○高齢化が益々進み、地区の老人クラブも役員に若い人が殆んどいなくなり困っている。６５歳になれば必ず老人クラブへという活動が大切だ。
○当地区は４年前から女性会の組織が消滅してしまい、地区内の活動上困った問題も出始めている。市の問題として考えてほしい。

活動予定

地域内の特別養護老人ホーム等との交流も勧めて行きたい。

その他写真等